MOVE THE WORLD FORWARD MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES GROUP

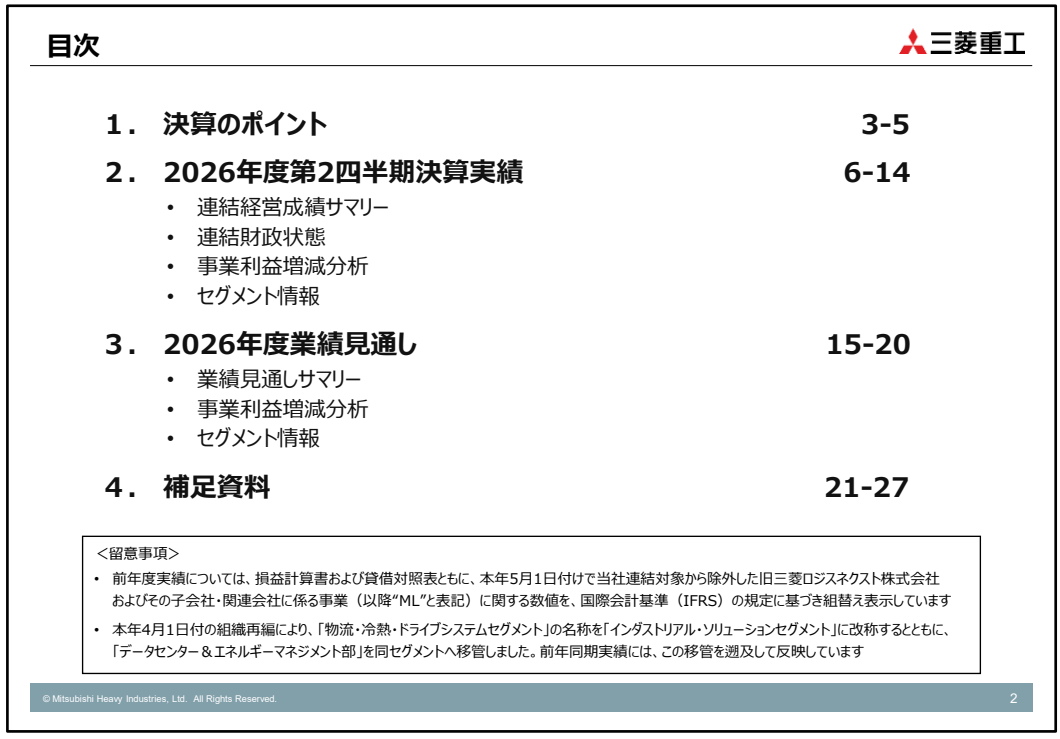
2026年度第2四半期決算説明資料

2026年11月6日

三菱重工業株式会社

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

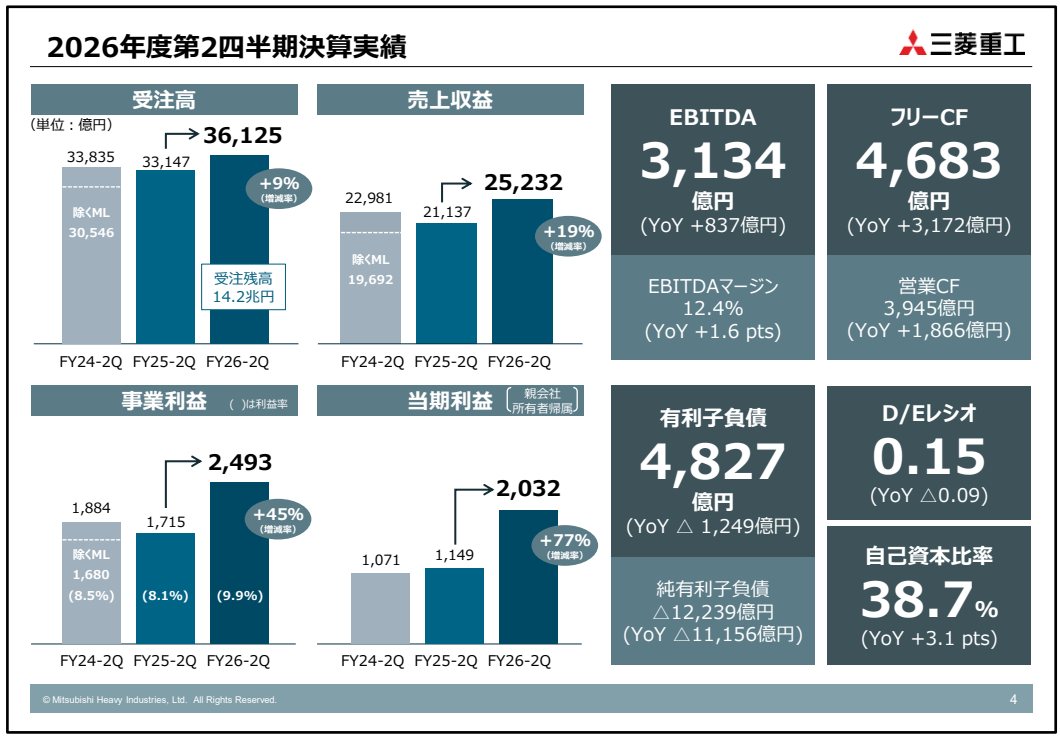
三菱重工



＜AIナレーター＞
それでは、2026年度第2四半期の決算実績の詳細、ならびに年間の業績見通しについて、ポイントを絞って説明いたします。

１．　決算のポイント

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.



4ページをご覧下さい。第２四半期実績の全体概況について説明いたします。

受注高は、航空・防衛・宇宙セグメントを除く3セグメントで増加し、
前年同期比9％増の3兆6,125億円となりました。
受注残高は、14兆円を超える水準が続いています。

売上収益は、前年同期比19%増の2兆5,232億円、事業利益は、45%増の
2,493億円となりました。

また、親会社の所有者に帰属する当期利益は、事業利益の増加に加え、
為替差益や金融収益もあり、77%増の2,032億円となりました。

受注高、売上収益、事業利益、親会社の所有者に帰属する当期利益の
いずれも、第2四半期実績として過去最高を更新しました。

なお、フリー・キャッシュ・フローは4,683億円の黒字、有利子負債残高は4,827
億円となっています。

2026年度第2四半期決算実績ハイライト

三菱重工

- **受注高：36,125億円**（前年同期比：+2,978億円、9%増）
  エナジー、プラント・インフラ、インダストリアル・ソリューションの3セグメントにおいて前年同期比増加。主な事業別では、GTCC、原子力、製鉄機械が大きく伸ばした。
  受注残高は、前年度末から9,880億円増の14兆2,256億円となった

- **売上収益：25,232億円**（前年同期比：+4,095億円、19%増）
  全セグメントにおいて前年同期比増収。
  主な事業別では、GTCC、防衛・宇宙、原子力が大きく伸ばした

- **事業利益：2,493億円**（前年同期比：+777億円、45%増）
  エナジー、インダストリアル・ソリューション、航空・防衛・宇宙の3セグメントにおいて前年同期比増益。主な事業別では、GTCC、原子力が大きく伸ばした

- **当期利益：2,032億円**（前年同期比：+883億円、77%増）
  事業利益の増加に加え、為替差益・金融収益もあり、前年同期比で大幅な増益となった

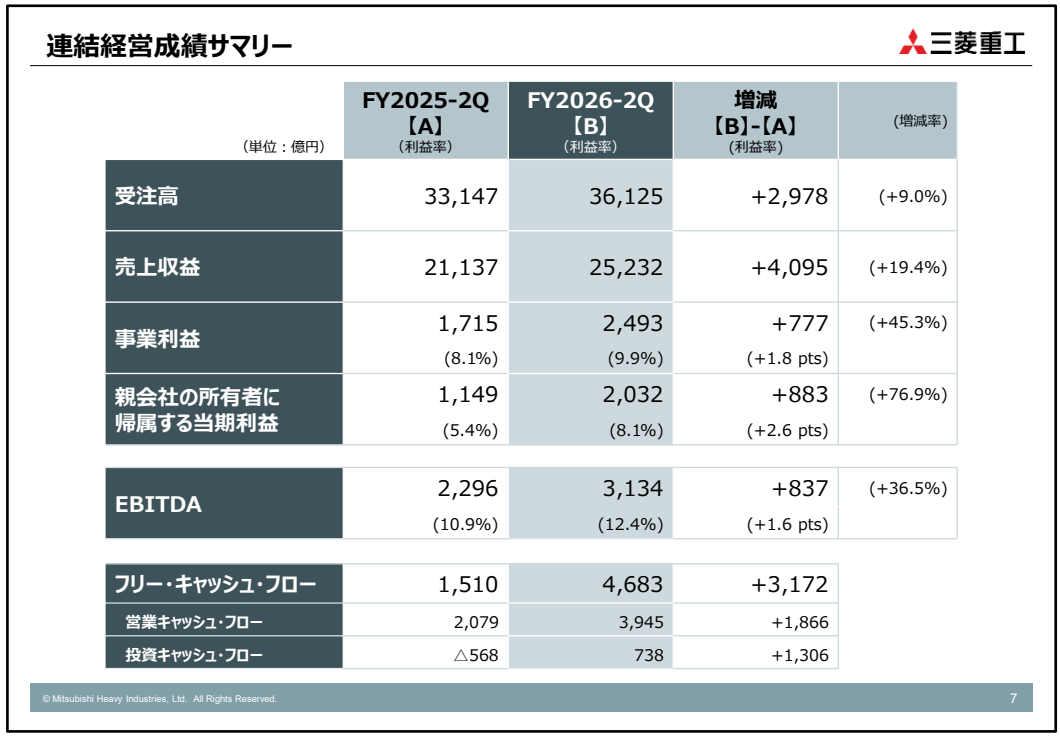
© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

MOVE THE WORLD FORWARD MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES GROUP

2． 2026年度第2四半期決算実績

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

それでは、決算実績について、もう少し詳細に説明してまいります。



連結経営成績サマリー

三菱重工

（単位：億円）	FY2025-2Q【A】（利益率）	FY2026-2Q【B】（利益率）	増減【B】-【A】（利益率）	（増減率）
受注高	33,147	36,125	+2,978	(+9.0%)
売上収益	21,137	25,232	+4,095	(+19.4%)
事業利益	1,715 (8.1%)	2,493 (9.9%)	+777 (+1.8 pts)	(+45.3%)
親会社の所有者に帰属する当期利益	1,149 (5.4%)	2,032 (8.1%)	+883 (+2.6 pts)	(+76.9%)
EBITDA	2,296 (10.9%)	3,134 (12.4%)	+837 (+1.6 pts)	(+36.5%)
フリー・キャッシュ・フロー	1,510	4,683	+3,172	
営業キャッシュ・フロー	2,079	3,945	+1,866	
投資キャッシュ・フロー	△568	738	+1,306	

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

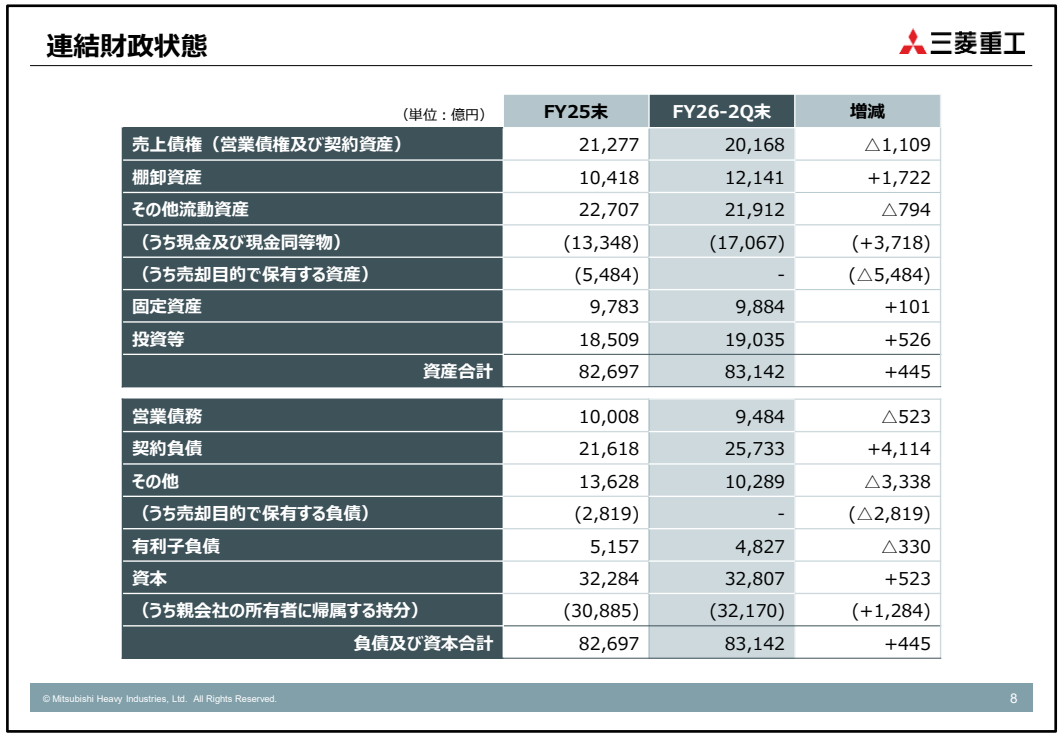
7ページをご覧ください。

上段の、受注高・売上収益・事業利益・親会社の所有者に帰属する当期利益については、先ほどお伝えしたとおりです。

下段には、フリー・キャッシュ・フロー4,683億円の内訳を記載しています。

営業キャッシュ・フローは、利益の創出に加え、GTCCなどで引き続き多額の前受金を獲得したことなどにより、3,945億円の黒字です。

投資キャッシュ・フローも738億円の黒字ですが、これは、第１四半期に完了した旧三菱ロジスネクスト関連の事業売却の影響によるものです。



連結財政状態

三菱重工

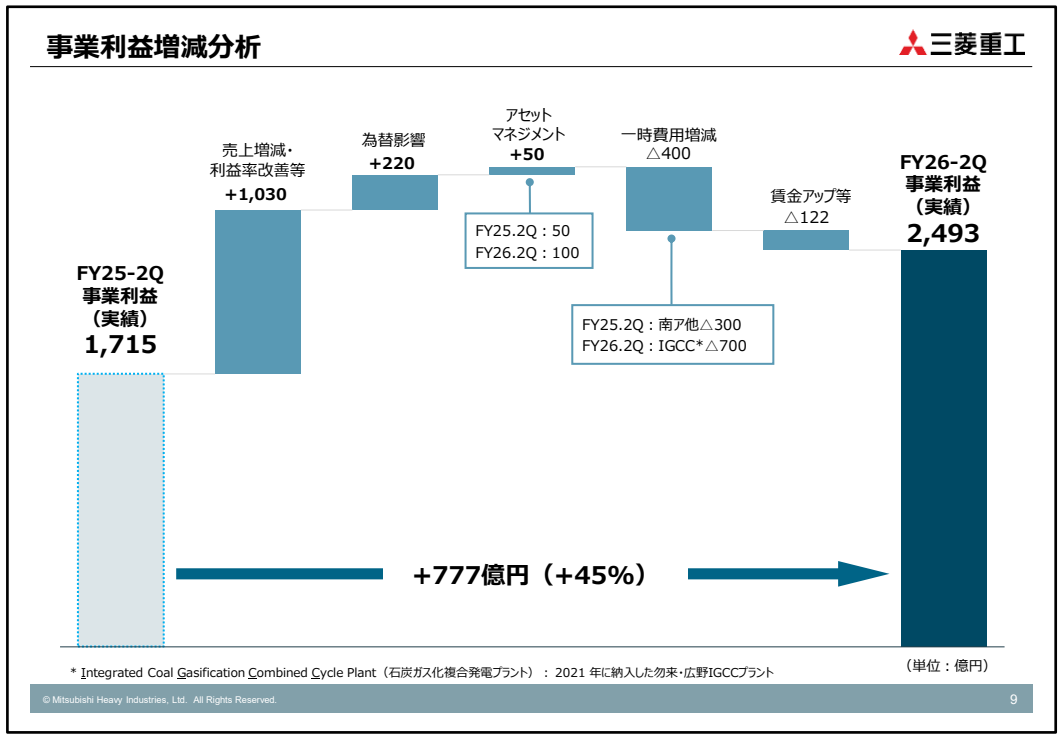
（単位：億円）	FY25末	FY26-2Q末	増減
売上債権（営業債権及び契約資産）	21,277	20,168	△1,109
棚卸資産	10,418	12,141	+1,722
その他流動資産	22,707	21,912	△794
（うち現金及び現金同等物）	(13,348)	(17,067)	(+3,718)
（うち売却目的で保有する資産）	(5,484)	-	(△5,484)
固定資産	9,783	9,884	+101
投資等	18,509	19,035	+526
資産合計	82,697	83,142	+445
営業債務	10,008	9,484	△523
契約負債	21,618	25,733	+4,114
その他	13,628	10,289	△3,338
（うち売却目的で保有する負債）	(2,819)	-	(△2,819)
有利子負債	5,157	4,827	△330
資本	32,284	32,807	+523
（うち親会社の所有者に帰属する持分）	(30,885)	(32,170)	(+1,284)
負債及び資本合計	82,697	83,142	+445

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

8ページをご覧ください。バランスシートについて説明いたします。

総資産は８兆3,142億円で、前年度末から445億円増加しています。
契約負債、つまり前受金の増加などを背景に、現金及び現金同等物が3,700億円余り増加したほか、事業規模の拡大に伴い棚卸資産等も増加しましたが、第１四半期に完了した事業売却に伴う減少もあり、全体としては小幅な増加にとどまっています。

有利子負債残高は、前年度末から330億円減少しています。



9ページをご覧ください。前年同期対比での事業利益の増減要因について説明いたします。

当第２四半期は、前年同期の1,715億円に対し、777億円の増益となりました。

主な増益要因は、売上の増加と利益率の改善です。豊富な受注残の遂行による増収に加え、受注時採算の好転などによる利益率の改善で、1,030億円の増益効果がありました。

為替は、売上計上レートが前年同期の1ドル146円から当期は158円へと大きく円安に振れたことで220億円、アセットマネジメントも50億円、それぞれ増益要因となりました。

一方、一時費用については、過去に納入した勿来・広野IGCCプラントの安定運営に向けて、一部部品の交換費用を引当計上したことで、前年同期比400億円の減益要因となりました。

それでは続いて、事業セグメント別の受注・売上・事業利益について説明いたします。

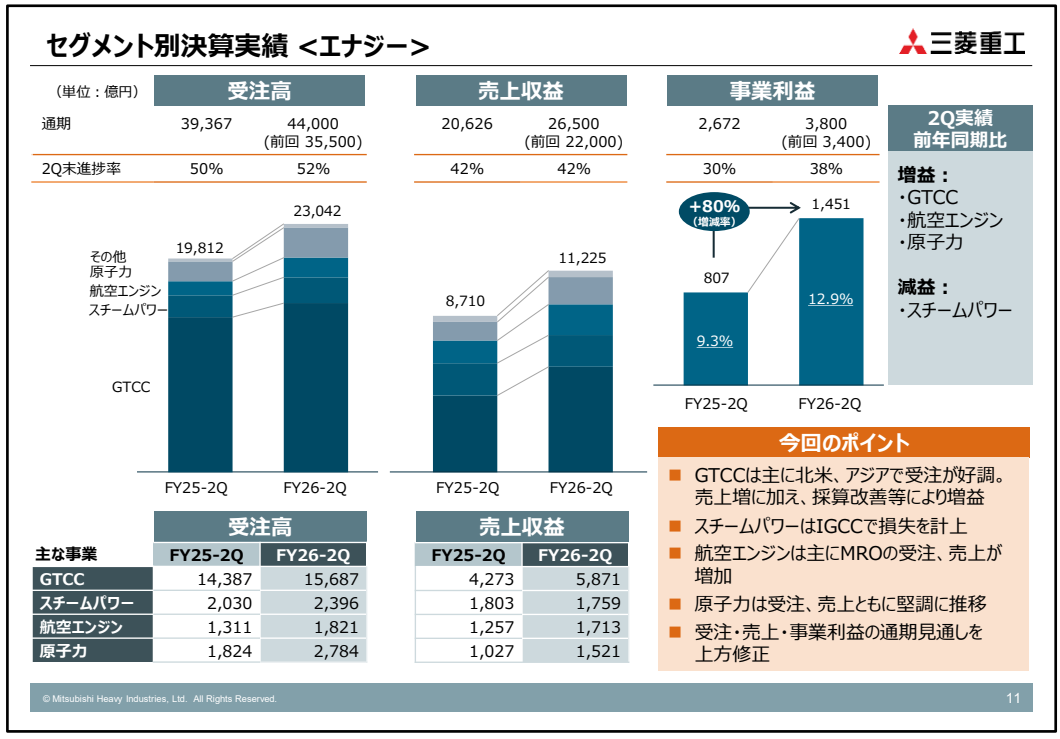
決算実績　セグメント別内訳

三菱重工

（単位：億円）	受注高			売上収益			事業利益		
	FY25* 2Q	FY26 2Q	増減	FY25* 2Q	FY26 2Q	増減	FY25* 2Q	FY26 2Q	増減 (増減率)
エナジー	19,812	23,042	+3,230	8,710	11,225	+2,515	807	1,451	+643 (+80%)
プラント・インフラ	4,906	6,895	+1,988	4,159	4,298	+138	446	414	△31 (△7%)
インダストリアル・ソリューション	3,254	3,756	+501	3,141	3,526	+385	67	147	+80 (+119%)
航空・防衛・宇宙	5,450	2,968	△2,481	5,388	6,334	+946	603	763	+159 (+27%)
その他及び全社又は消去	△277	△537	△260	△262	△152	+110	△209	△284	△75 (-)
合計	33,147	36,125	+2,978	21,137	25,232	+4,095	1,715	2,493	+777 (+45%)

(*) P.2に記載した要領に基づき、2025年度の実績を組み替えて表示

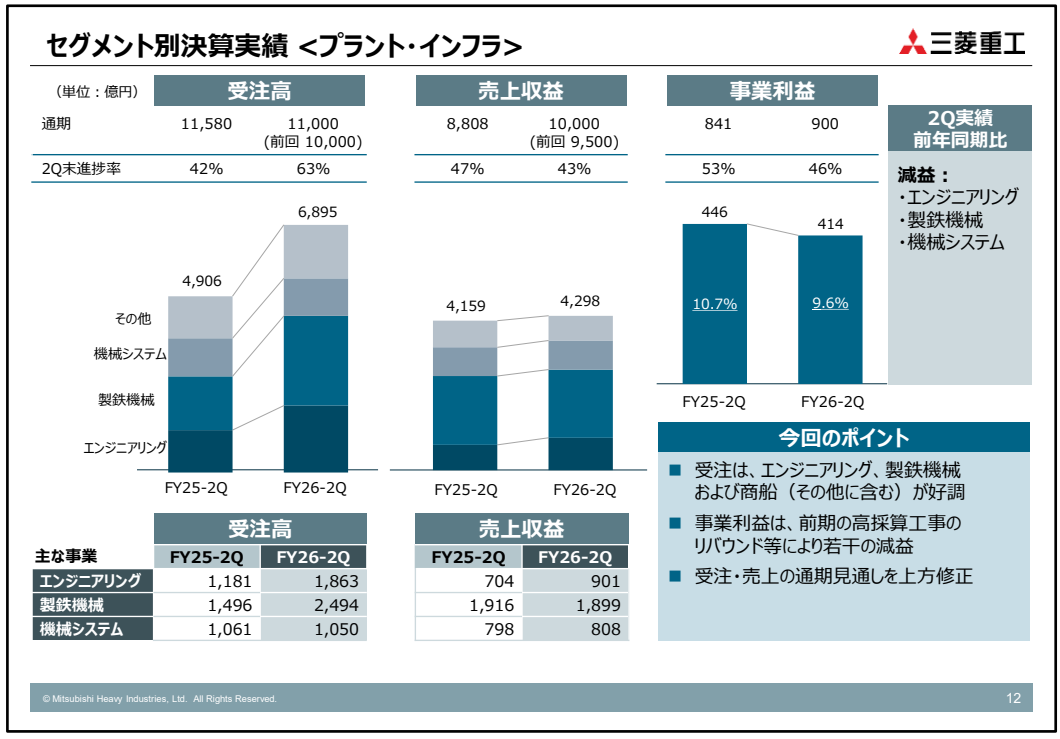
© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.



11ページをご覧ください。

エナジーセグメントでは、GTCCをはじめ各事業で受注が増加し、セグメント全体の受注高は、前年同期比16%増の2兆3,042億円となりました。GTCCは、引き続き北米・アジアでの受注が好調です。

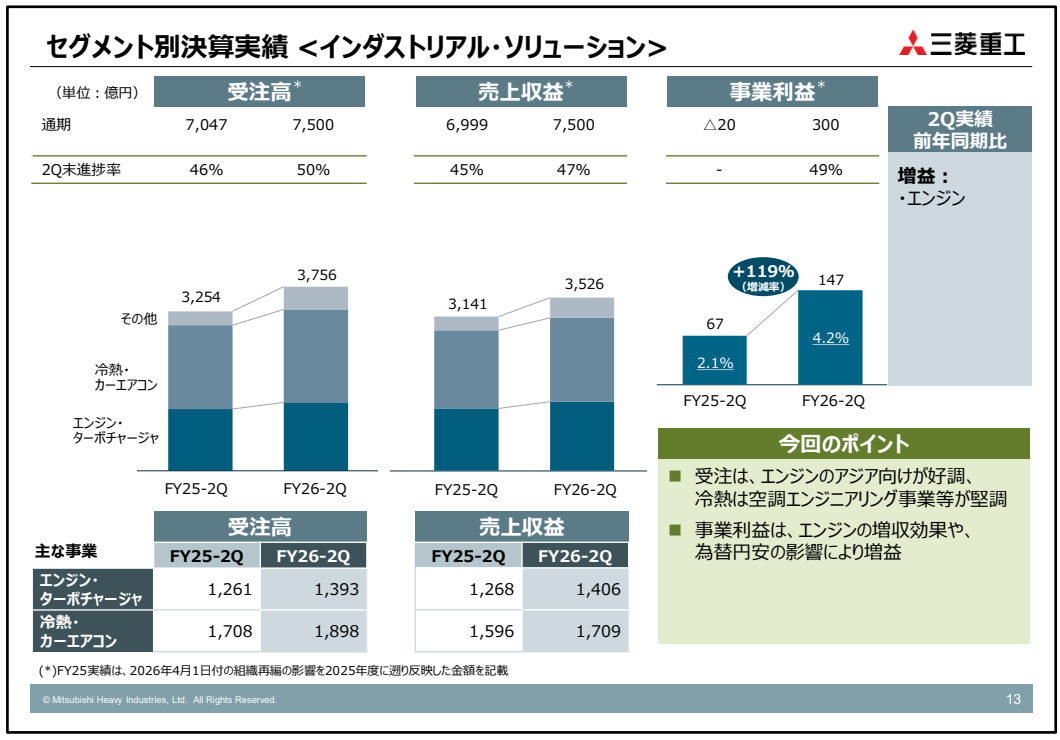
売上収益は前年同期比29%増の 1 兆1,225億円、事業利益は80%増の1,451億円となりました。主にGTCCと原子力における増収効果や採算改善により、IGCCの一時費用の影響を吸収した上でなお、大幅な増益となりました。



12ページをご覧ください。

プラント・インフラセグメントでは、エンジニアリング、製鉄機械、商船の受注が増加し、セグメント全体の受注高は、前年同期比41%増の6,895億円となりました。

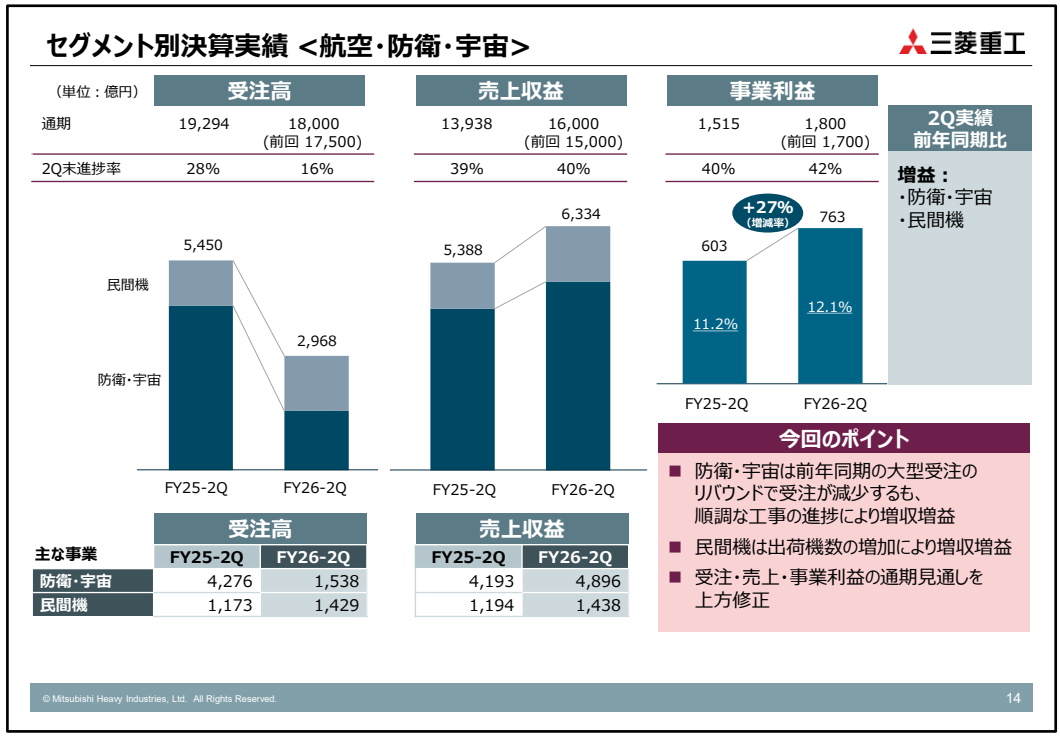
売上収益は概ね前年並みの4,298億円、事業利益は、前年同期の高採算工事のリバウンド等により若干減少し、414億円となりました。



13ページをご覧ください。

インダストリアル・ソリューションセグメントでは、エンジン・冷熱等の受注が伸び、セグメント全体の受注高は前年同期比15%増の3,756億円、売上収益は12%増の3,526億円となりました。

事業利益は、エンジンの増収効果や為替円安等の影響により、119%増の147億円となりました。



14ページをご覧ください。

航空・防衛・宇宙セグメントの受注は、前年同期における防衛の大型受注のリバウンドで大きく減少しましたが、受注残は約3兆7,000億円と高い水準が続いています。

また、防衛・宇宙の豊富な手持ち工事の着実な遂行、ならびに民間機の出荷機数増加等により、売上収益は前年同期比18％増の6,334億円、事業利益は27％増の763億円となりました。

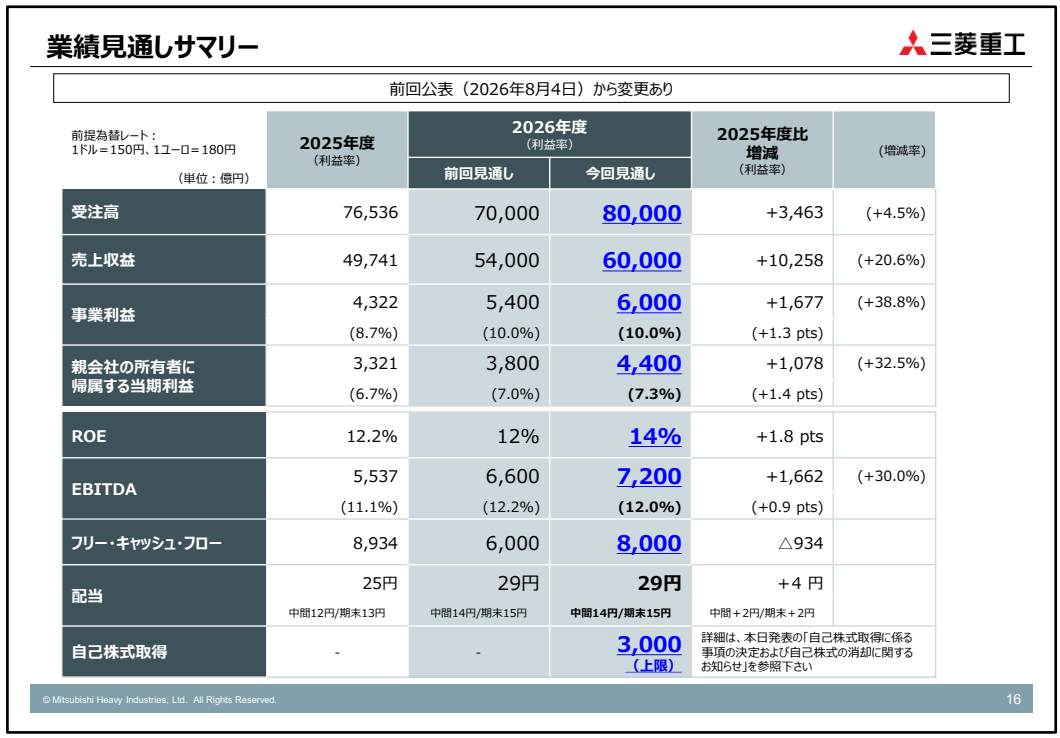
3． 2026年度業績見通し

本資料に記載している業績見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したもので、リスクや不確実性を含んでおり、また、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。
従いまして、この業績見通しのみに依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。
実際の業績は、様々な重要な要素により、この業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。
実際の業績に影響を与える要素には、当社グループの事業領域をとりまく経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レート、日本の株式相場などが含まれます。

業績見通しには、中東情勢の影響を含めておりません。
足許の受注やサプライチェーン等への直接的な影響は限定的ですが、情勢は流動的であり、引き続き状況を注視して参ります。

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

続きまして、年間の業績見通しについて説明いたします。



業績見通しサマリー

三菱重工

前回公表（2026年8月4日）から変更あり

前提為替レート：
1ドル＝150円、1ユーロ＝180円
（単位：億円）

	2025年度（利益率）	2026年度（利益率） 前回見通し	2026年度（利益率） 今回見通し	2025年度比増減（利益率）	（増減率）
受注高	76,536	70,000	**80,000**	+3,463	(+4.5%)
売上収益	49,741	54,000	**60,000**	+10,258	(+20.6%)
事業利益	4,322 (8.7%)	5,400 (10.0%)	**6,000** **(10.0%)**	+1,677 (+1.3 pts)	(+38.8%)
親会社の所有者に帰属する当期利益	3,321 (6.7%)	3,800 (7.0%)	**4,400** **(7.3%)**	+1,078 (+1.4 pts)	(+32.5%)
ROE	12.2%	12%	**14%**	+1.8 pts	
EBITDA	5,537 (11.1%)	6,600 (12.2%)	**7,200** **(12.0%)**	+1,662 (+0.9 pts)	(+30.0%)
フリー・キャッシュ・フロー	8,934	6,000	**8,000**	△934	
配当	25円 中間12円/期末13円	29円 中間14円/期末15円	**29円** **中間14円/期末15円**	+4 円 中間＋2円/期末＋2円	
自己株式取得	-	-	**3,000** **（上限）**	詳細は、本日発表の「自己株式取得に係る事項の決定および自己株式の消却に関するお知らせ」を参照下さい	

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

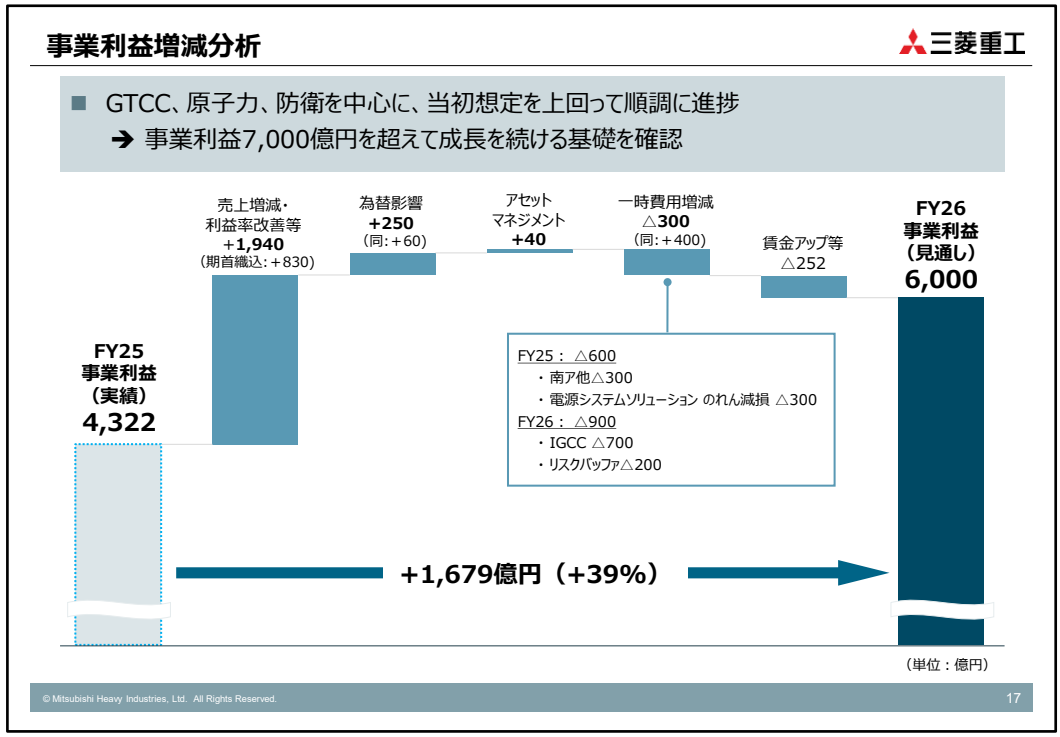
16ページをご覧下さい。

受注については、GTCCをはじめ、複数の事業で通期見通しを引き上げ、
全体では１兆円上方修正します。また、売上収益、事業利益、親会社の所有者に帰属する当期利益についても、それぞれご覧のとおり見通しを引き上げます。

セグメント別の内訳は、18ページ以降をご参照下さい。なお、事業利益見通し6,000億円には、引き続き200億円のリスクバッファーを織り込んでいます。

フリー・キャッシュ・フローについては、通期見通しを2,000億円引き上げ、8,000億円に上方修正します。

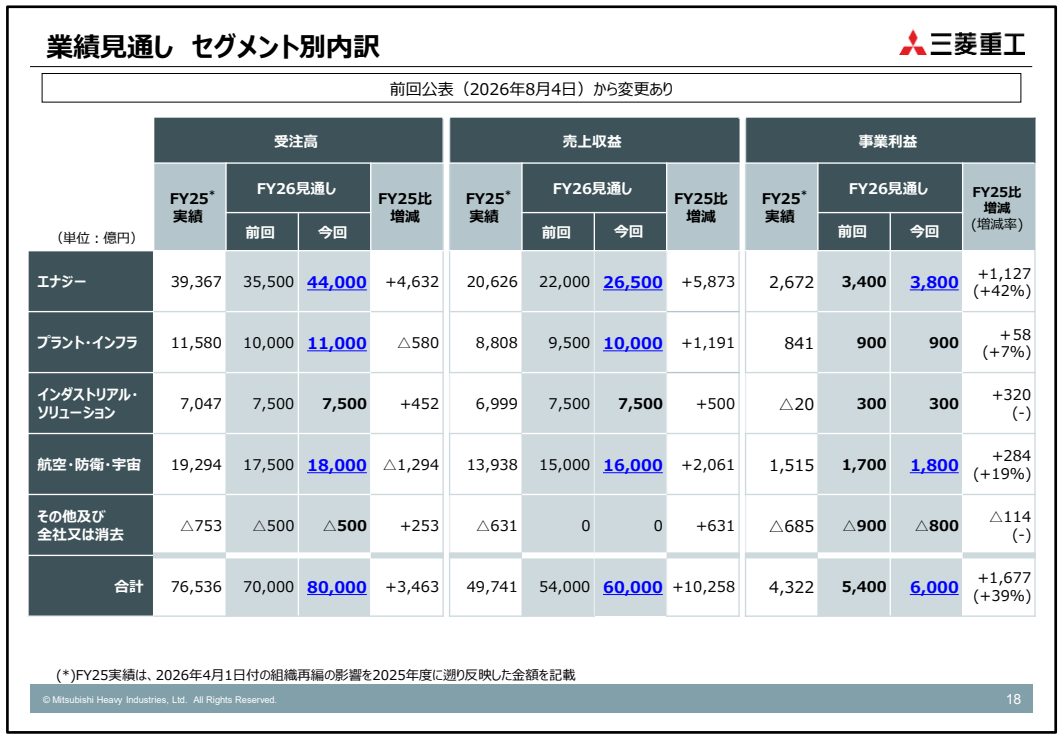
配当は前回公表から変更有りませんが、資本政策の一環として、3,000億円を上限とする自己株式の取得を実施いたします。詳細は、本日発表しました適時開示をご参照下さい。



17ページは、前年度対比での事業利益の増減分析です。

ご覧のとおり、売上増減・利益率改善等による増益効果は1,940億円と、
期首時点で見込んでいた830億円から大幅に拡大する見通しです。

一時費用は、期首時点の想定から一転して300億円の減益要因となるものの、これを吸収してなお、全体で1,600億円を超える増益を見込んでいます。



業績見通し　セグメント別内訳

三菱重工

前回公表（2026年8月4日）から変更あり

（単位：億円）	受注高				売上収益				事業利益			
	FY25*実績	FY26見通し		FY25比増減	FY25*実績	FY26見通し		FY25比増減	FY25*実績	FY26見通し		FY25比増減（増減率）
		前回	今回			前回	今回			前回	今回	
エナジー	39,367	35,500	**44,000**	+4,632	20,626	22,000	**26,500**	+5,873	2,672	**3,400**	**3,800**	+1,127 (+42%)
プラント・インフラ	11,580	10,000	**11,000**	△580	8,808	9,500	**10,000**	+1,191	841	**900**	**900**	+58 (+7%)
インダストリアル・ソリューション	7,047	7,500	**7,500**	+452	6,999	7,500	**7,500**	+500	△20	**300**	**300**	+320 (-)
航空・防衛・宇宙	19,294	17,500	**18,000**	△1,294	13,938	15,000	**16,000**	+2,061	1,515	**1,700**	**1,800**	+284 (+19%)
その他及び全社又は消去	△753	△500	**△500**	+253	△631	0	0	+631	△685	**△900**	**△800**	△114 (-)
合計	76,536	70,000	**80,000**	+3,463	49,741	54,000	**60,000**	+10,258	4,322	**5,400**	**6,000**	+1,677 (+39%)

(*)FY25実績は、2026年4月1日付の組織再編の影響を2025年度に遡り反映した金額を記載

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

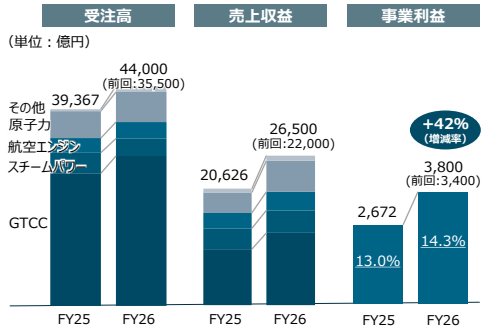
スライド18ページから20ページには、セグメント別の内訳を記載していますが、この場での説明は省略します。スライド21ページから24ページの補足資料と合わせて、後ほどご覧下さい。

それでは引き続き、CFOの西尾より、決算実績に対する評価と、キャッシュアロケーションについてお話いたします。

セグメント別業績見通し <エナジー、プラント・インフラ>

三菱重工

エナジー



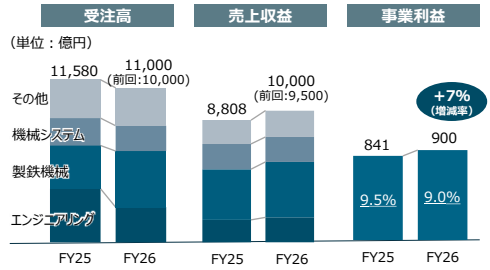
業績見通し修正のポイント

【受注】 GTCCでは有望商談を追加、原子力では燃料サイクル関連工事が増加するなど、全てのサブセグメントで上方修正

【売上・利益】 順調な工事進捗を踏まえ、売上を上方修正すると共に、GTCCの採算改善等を加味し、事業利益見通しを引き上げ

	受注高		売上高	
	FY25	FY26見通し	FY25	FY26見通し
GTCC	26,526	30,000 （前回:24,000）	9,922	12,800 （前回:11,000）
スチームパワー	4,137	3,500 （前回:3,300）	3,675	4,000 （前回:3,300）
航空エンジン	2,917	3,300 （前回:2,600）	2,741	3,300 （前回:2,600）
原子力	5,406	6,000 （前回:4,500）	3,611	5,500 （前回:4,000）

プラント・インフラ



業績見通し修正のポイント

【受注】 エンジニアリングは第2四半期の中東での大型受注、製鉄機械は有望商談の追加に伴い、上方修正

【売上】 順調な工事進捗を反映

	受注高		売上高	
	FY25	FY26見通し	FY25	FY26見通し
エンジニアリング	3,819	2,500 （前回:1,800）	1,616	1,800
製鉄機械	3,076	4,000 （前回:3,500）	3,656	4,000
機械システム	1,952	1,800	1,819	1,800

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

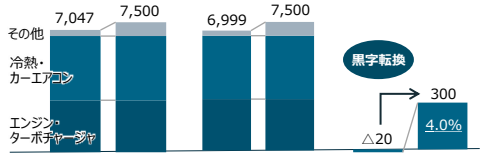
セグメント別業績見通し <インダストリアル・ソリューション、航空・防衛・宇宙>

三菱重工

インダストリアル・ソリューション

受注高＊ | 売上収益＊ | 事業利益＊

（単位：億円）



業績見通し修正のポイント

※業績見通しの修正無し

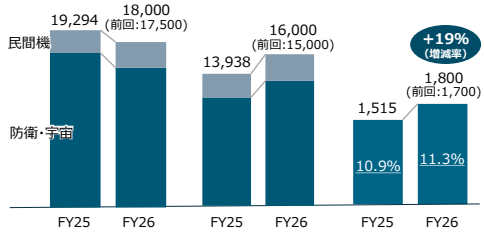
	受注高		売上高	
	FY25	FY26見通し	FY25	FY26見通し
エンジン・ターボチャージャ	2,850	3,000	2,856	3,000
冷熱・カーエアコン	3,610	3,700	3,531	3,700

(*)FY25実績は、2026年4月1日付の組織再編の影響を2025年度に遡り反映した金額を記載

航空・防衛・宇宙

受注高 | 売上収益 | 事業利益

（単位：億円）



業績見通し修正のポイント

【受注】 上半期の実績を踏まえ、それぞれ上方修正

【売上・利益】 防衛・宇宙は順調な工事進捗、民間機は出荷実績・生産計画を踏まえ、売上を上方修正。これに伴い、事業利益の見通しも引き上げ

	受注高		売上高	
	FY25	FY26見通し	FY25	FY26見通し
防衛・宇宙	16,826	15,200 (前回:15,000)	11,445	13,200 (前回:12,500)
民間機	2,468	2,800 (前回:2,500)	2,492	2,800 (前回:2,500)

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

4. 補足資料

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

補足資料　参考データ

三菱重工

大型ガスタービン 受注台数･契約残台数

	FY25-2Q	FY25通期	FY26-2Q
米州	12	19	11
アジア	11	12	8
EMEA	-	4	-
その他	-	-	-
受注台数 合計	23 (10GW)	35 (16GW)	19 (8GW)
契約残台数	67 (29GW)	74 (33GW)	83 (37GW)

【参考】中国の協業先企業における受注台数

	FY25-2Q	FY25通期	FY26-2Q
受注台数	4	13	4

民間航空機 出荷機数

777	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
FY25	6	8	4	5	23
FY26	7	7			14

777X	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
FY25	0	3	5	1	9
FY26	1	7			8

787	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
FY25	18	17	16	22	73
FY26	21	22			43

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

補足資料　参考データ

三菱重工

受注残高

（単位：億円）	FY25末	FY26-2Q末
エナジー	69,832	80,640
プラント・インフラ	21,028	23,270
インダストリアル・ソリューション(*1)	875	1,088
航空・防衛・宇宙	40,632	37,247
その他及び全社又は消去 (*1)	8	10
合計	132,376	142,256

未確定外貨

（億通貨単位）	USD	EUR
未確定外貨（事業利益）	22	5
未確定外貨（金融収益費用）	24	-
前提為替レート	150.0	180.0

為替レート（売上計上平均レート）

	FY25-2Q	FY26-2Q
USドル（円/USドル）	146.4	158.1
ユーロ（円/ユーロ）	165.8	183.7

研究開発費、減価償却費、設備投資

（単位：億円）	FY25-2Q	FY26-2Q	FY26見通し
研究開発費（広義）(*2)	1,041	1,414	3,500
減価償却費	580	641	1,200
設備投資 (*3)	695	780	2,100

販売費及び一般管理費

（単位：億円）	FY25-2Q	FY26-2Q
販管費	2,983	3,341

エナジーセグメント 売上AS比率（累計）

	FY25-2Q	FY26-2Q
GTCC	51%	42%
スチームパワー	78%	82%
航空エンジン	78%	76%
原子力	71%	71%
エナジー計	64%	59%

(*1) FY25実績は、2026年4月1日付の組織再編の影響を2025年度に遡り反映した金額を記載
(*2) 研究開発費には、受託研究等の費用を含む
(*3) 設備投資には、対価を得て行う生産準備役務等のために取得した固定資産に対する支出を含む

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

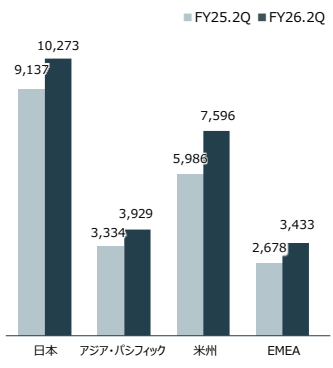
補足資料　地域別売上高

三菱重工

全社

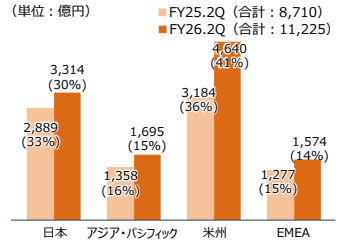
（単位：億円）

	FY25-2Q		FY26-2Q	
日本	9,137	(43%)	10,273	(41%)
アジア・パシフィック	3,334	(16%)	3,929	(16%)
米州	5,986	(28%)	7,596	(30%)
EMEA	2,678	(13%)	3,433	(14%)
合計	21,137		25,232	



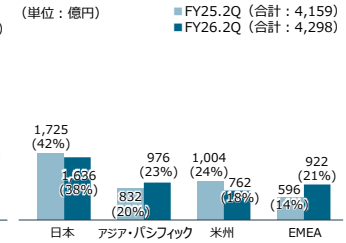
エナジー

（単位：億円）



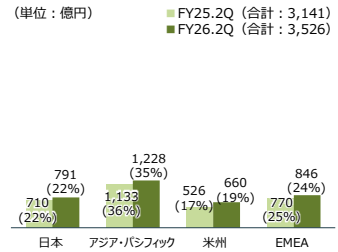
プラント・インフラ

（単位：億円）



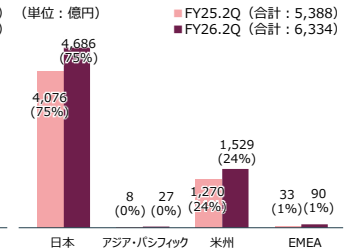
インダストリアル・ソリューション*

（単位：億円）



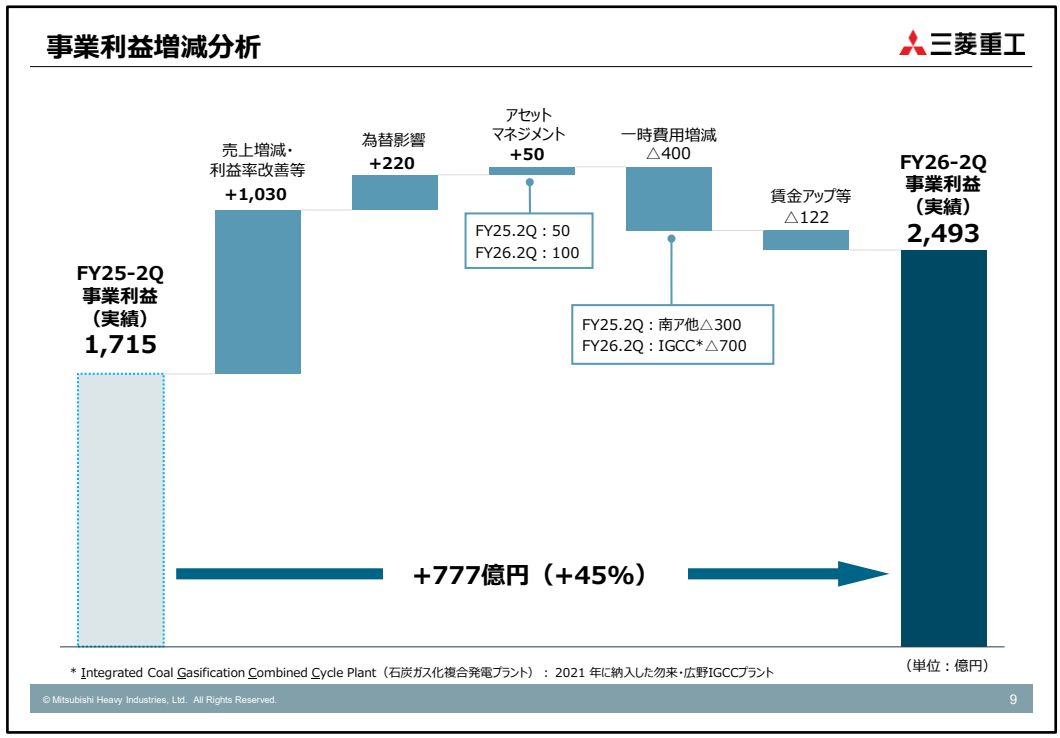
航空・防衛・宇宙

（単位：億円）



(*)FY25実績は、2026年4月1日付の組織再編の影響を2025年度に遡り反映した金額を記載

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.



CFOの西尾です。

9ページの事業利益増減分析について、もう少し詳細に説明いたします。
売上増減・利益率改善等による増益効果は、上期で約1,000億円となりました。

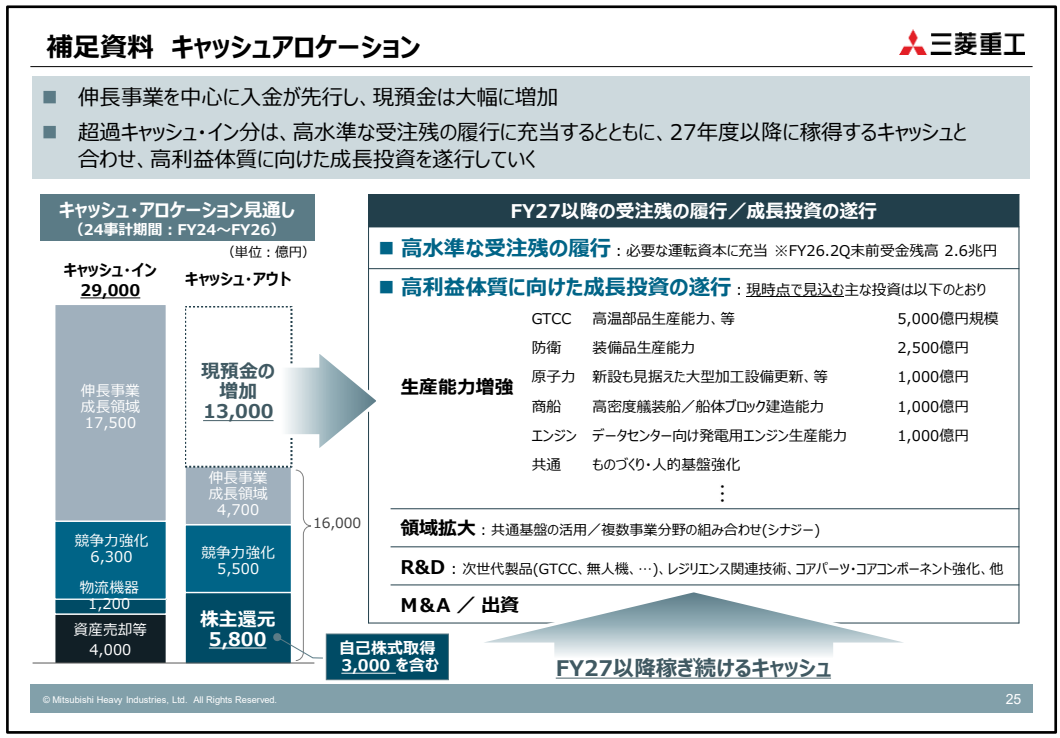
期首時点では、通期で約800億円の増益効果を見込んでおりましたが、上期の進捗を踏まえ、17ページに記載のとおり、通期の売上増減・利益率改善等による増益効果を約1,900億円に上方修正しております。

全体として好調に推移していますが、売上増加に伴う増益については、
エナジーセグメントにおけるGTCCの新設、原子力、スチームパワーの国内サービスに加え、防衛が寄与しております。また、利益率改善については、新設案件の売価改善、ロスコストの低減、生産効率の向上など、これまでの取り組みの成果が着実に現れているものと評価しています。

こうした実績を通じて、次期中期経営計画（2027事業計画）の柱となる稼ぐ力の基盤を確認できたと考えております。

一方で、エナジーセグメントにおいて、製品保証費用約700億円を引当計上しました。これは、当社が納入したIGCCプラントについて、最新の技術検証結果を踏まえ、発電所の安定運転を確保するため、今後、一定期間ごとに一部部品の交換が必要になると判断し、そのために将来発生すると見込まれる費用を会計上引当したものです。

今後も、発電所の安定稼働の確保、将来費用の抑制および同様のリスクの
再発防止に努めてまいります。



25ページは、2025年度決算説明会においてご説明したキャッシュアロケーションをアップデートしたものです。

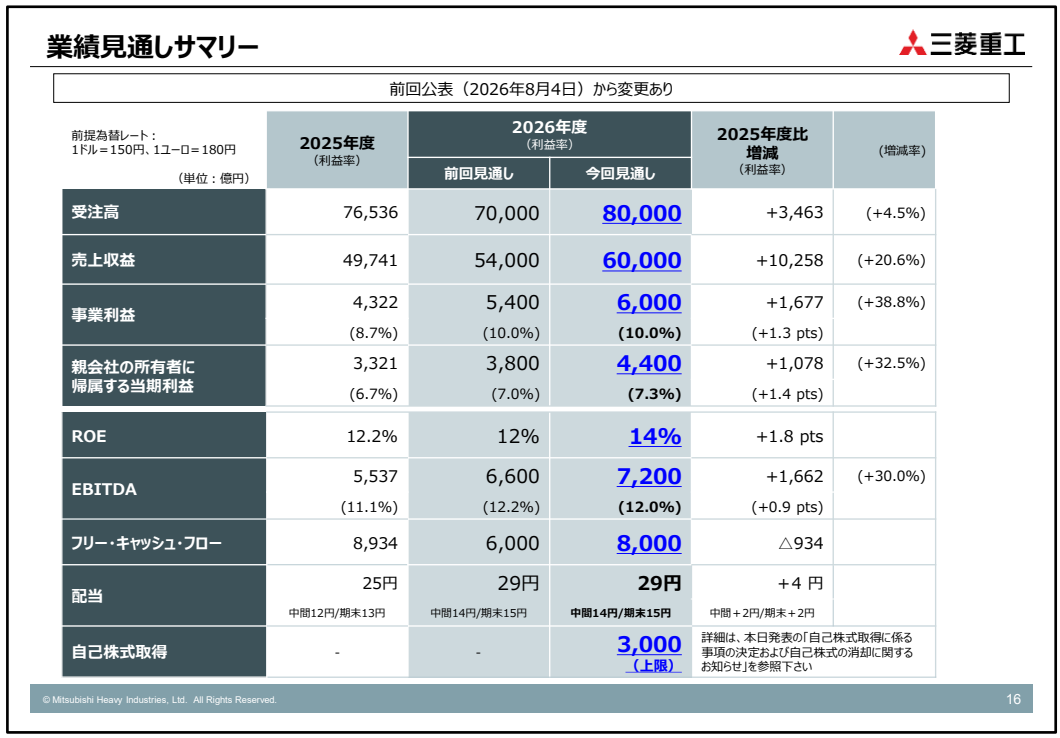
2024年度から2026年度までの3年間で、キャッシュ・インがキャッシュ・アウトを大きく上回り、手元資金が増加していますが、従前からご説明しておりますとおり、主にGTCCなどの前受金の増加によるものであり、今後の契約履行の過程で費消されていくという見方に変更はありません。

2027事業計画における成長戦略では、高利益体質の確立に向けて積極的に投資を進めていきます。現在の手元資金と2027年度以降に稼ぎ出すキャッシュが、その原資となります。

このスライドでお示ししている投資項目は現時点で見込んでいるものであり、詳細については後ほど社長の伊藤からご説明いたします。

このように、来年度以降は受注残の着実な遂行や成長投資に伴う大きな資金需要を見込む一方、足元では自己資本が十分な水準にあると認識しています。こうした状況を踏まえ、資本効率の向上を目的として、本日、3,000億円を上限とする自己株式の取得を決議しました。

私からの説明は以上となります。



業績見通しサマリー

三菱重工

前回公表（2026年8月4日）から変更あり

前提為替レート：1ドル＝150円、1ユーロ＝180円 （単位：億円）	2025年度 （利益率）	2026年度 （利益率） 前回見通し	2026年度 （利益率） 今回見通し	2025年度比増減 （利益率）	（増減率）
受注高	76,536	70,000	**80,000**	+3,463	(+4.5%)
売上収益	49,741	54,000	**60,000**	+10,258	(+20.6%)
事業利益	4,322 (8.7%)	5,400 (10.0%)	**6,000** **(10.0%)**	+1,677 (+1.3 pts)	(+38.8%)
親会社の所有者に帰属する当期利益	3,321 (6.7%)	3,800 (7.0%)	**4,400** **(7.3%)**	+1,078 (+1.4 pts)	(+32.5%)
ROE	12.2%	12%	**14%**	+1.8 pts	
EBITDA	5,537 (11.1%)	6,600 (12.2%)	**7,200** **(12.0%)**	+1,662 (+0.9 pts)	(+30.0%)
フリー・キャッシュ・フロー	8,934	6,000	**8,000**	△934	
配当	25円 中間12円/期末13円	29円 中間14円/期末15円	**29円** **中間14円/期末15円**	+4 円 中間＋2円/期末＋2円	
自己株式取得	-	-	**3,000** **（上限）**	詳細は、本日発表の「自己株式取得に係る事項の決定および自己株式の消却に関するお知らせ」を参照下さい	

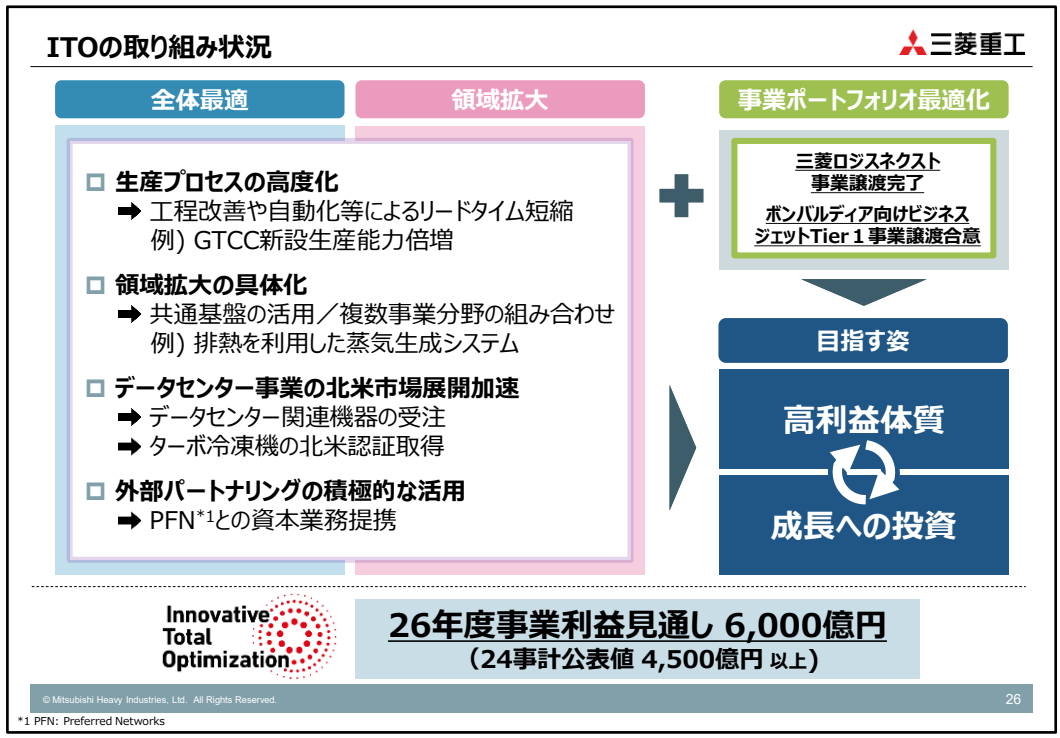
© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

社長の伊藤です。

私からは、今年度の業績見通し、ITOの推進状況並びに中長期的な成長に向けた取り組みについてお話ししたいと思います。

2026年度は事業利益等の業績が拡大基調にあります。ITOの取り組みが着実に実を結び、具体的な成果として現れはじめています。

受注の拡大を上回るスピードで生産性向上の取り組みを進めており、足元の業績だけでなく、その先の成長への道筋もより明確になってきました。2027事業計画でのさらなる成長に向け、確かな手応えを感じています。



次に、ITOの推進状況についてご説明いたします。

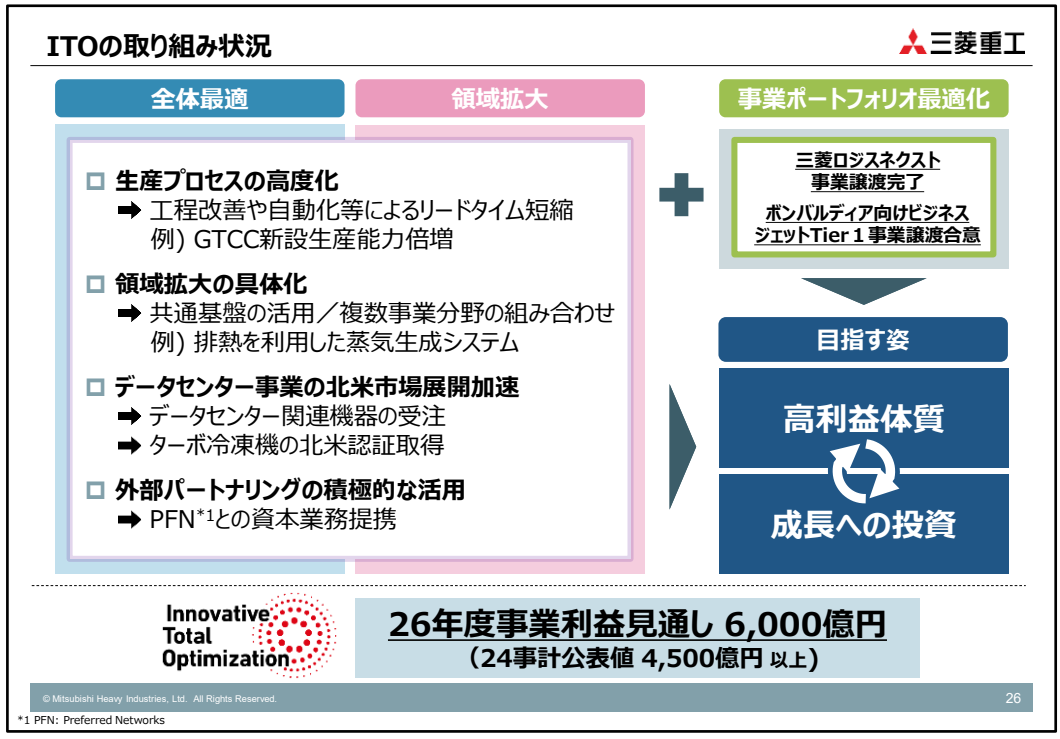
現在、高利益体質と成長投資の好循環の実現に向けた施策を加速しています。

まず、全社をあげて生産プロセスの高度化を通じたリードタイムの大幅な短縮に取り組んでいます。特に、GTCCでは、工程改善や自動化等により、大きな投資をすることなく、2030年度までに2024年度比で新設の生産能力を約2倍にする計画を進めています。

また、全社横断で「共通基盤の活用と複数事業分野の組合せによる領域拡大」の具体化を進めています。例えば、排熱を利用した蒸気生成システムの開発など、将来の成長につながる魅力的なアイデアが数多く生まれています。

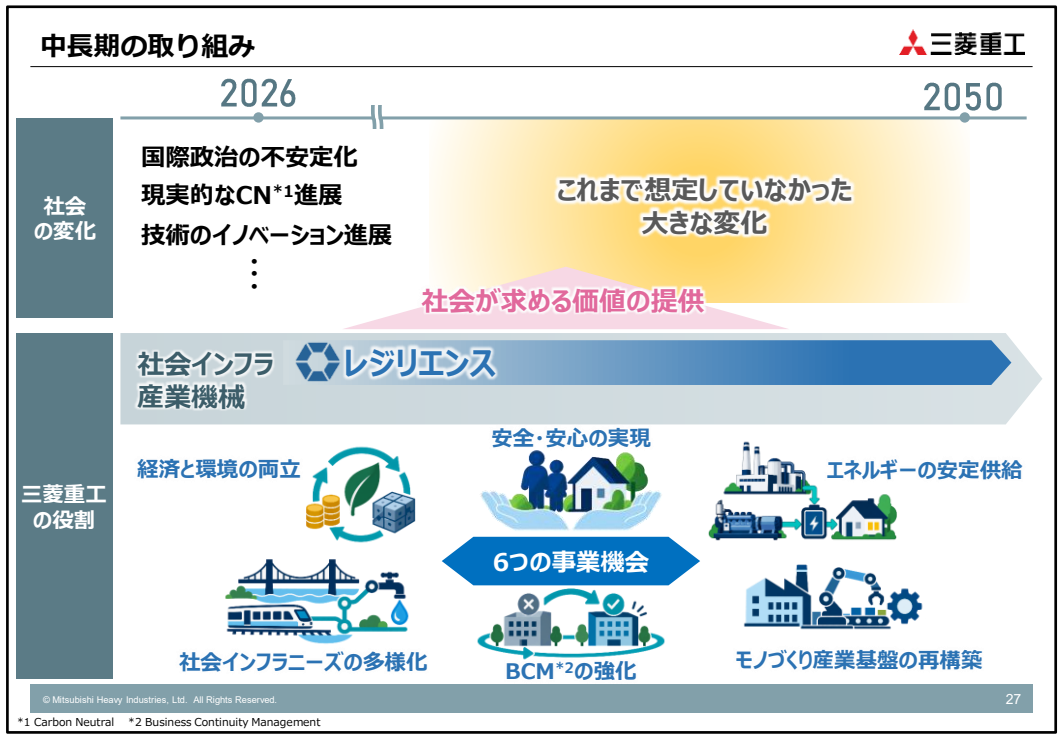
成長領域であるデータセンター関連事業の北米市場での展開も加速しています。北米でUPS*工事を受注したことに加え、大型ターボ冷凍機の北米認証を取得するなど、取り組みを着実に進めています。一方で、市場の変化を注視して、臨機応変に対応していきたいと思っています。

* UPS：Uninterruptible Power Supply、無停電電源装置



（前ページの続き）
技術や競争環境が急速に変化する中、外部とのパートナリングも積極的に活用していきます。ミッションクリティカル領域のAI技術開発の推進に向けた、Preferred Networks社との資本業務提携など、 社外の技術や知見を融合し、新たな価値創造につなげる取り組みを進めています。

事業ポートフォリオの見直しも継続して推進しています。三菱ロジスネクストの事業譲渡完了に加え、ボンバルディア向けビジネスジェットTier1事業の譲渡に合意しました。引き続き、当社が強みを発揮でき、より高い成長が期待できる領域へ経営資源を重点的に振り向けていきます。



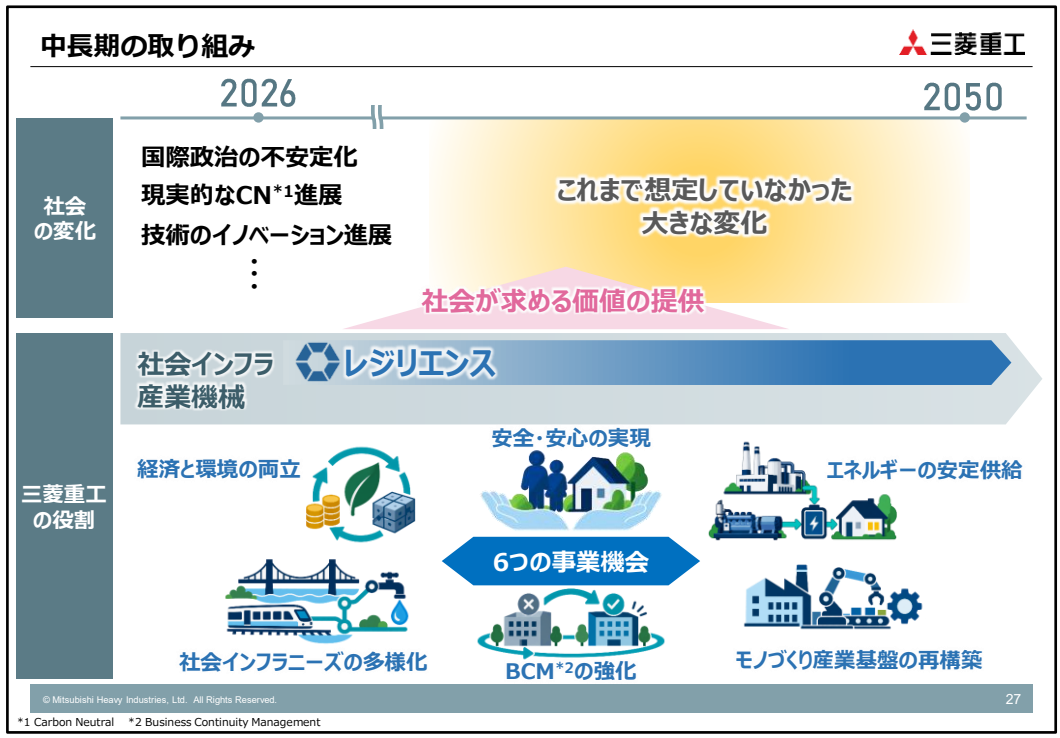
続いて、中長期的な成長に向けた取り組みについてご説明いたします。

さまざまな社会課題は、社会の変化から生まれてきます。社会インフラの整備や脱炭素への貢献など、当社はその時代の社会課題を解決する役割を担ってきました。

翻って、現在の社会を取り巻く環境を見ますと、国際政治の不安定化やサプライチェーンの分断、自然災害の激甚化、サイバーアタックなど、これまで想定していなかったような大きな変化が次々と起きています。

こうした社会環境のもとで、社会に求められているのは、何かが起きた後に単に元に戻すということではなく、想定外や突発的な大きな変化に対して、その影響を最小限に抑え、「生活・仕事・社会活動をできる限り止めない」こと、すなわち「レジリエンス」だと考えています。

このレジリエンスの実現は、当社にとって大きな事業機会となります。当社が持つさまざまな製品や技術、サービスを組み合わせることで、社会のレジリエンス向上に幅広く貢献できると考えています。



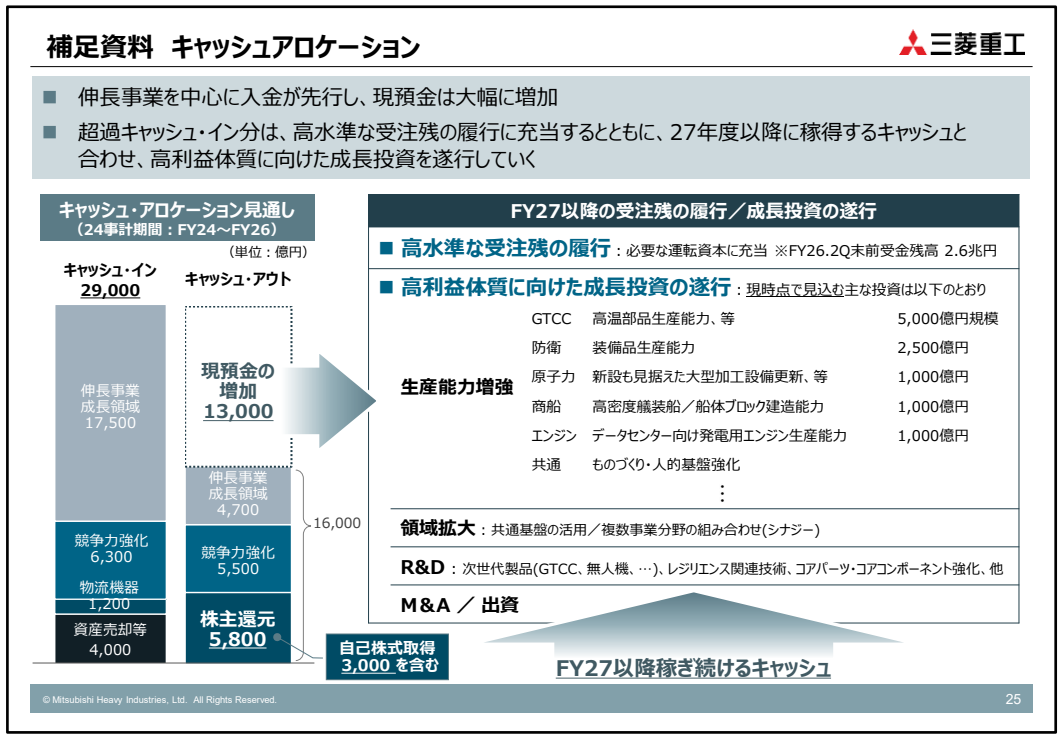
（前ページの続き）
例えば、安全・安心の実現のために、防衛や災害対応で当社が果たす役割はもちろんのこと、安価で安定したエネルギーの供給も、社会・経済活動を維持するうえで不可欠です。

当社は、エネルギー分野では、GTCC、原子力、スチームパワー、地熱、バイオマスなど、多様な製品・ 技術を持っています。燃料調達の不安や大規模災害などが起きても、必要なエネルギーを供給します。また、災害時には設備を健全な状態を維持したうえで、速やかに再起動します。こうした機能自体が、お客様や社会に提供できる大きな価値になると考えています。

過酷な環境でも活用できる無人機などは、激甚化する災害発生時の物資の輸送や、人手不足となっている製造現場での資材運搬、危険な場所での点検作業など、さまざまな社会課題の解決に役立てることができます。

いま申し上げたような事例は、それぞれ異なるテーマに見えますが、根底にある考え方は「レジリエンス」というキーワードで共通しています。

社会インフラや産業機械に対して、レジリエンスという切り口から新たな事業機会を見出し、将来の成長につなげていきます。



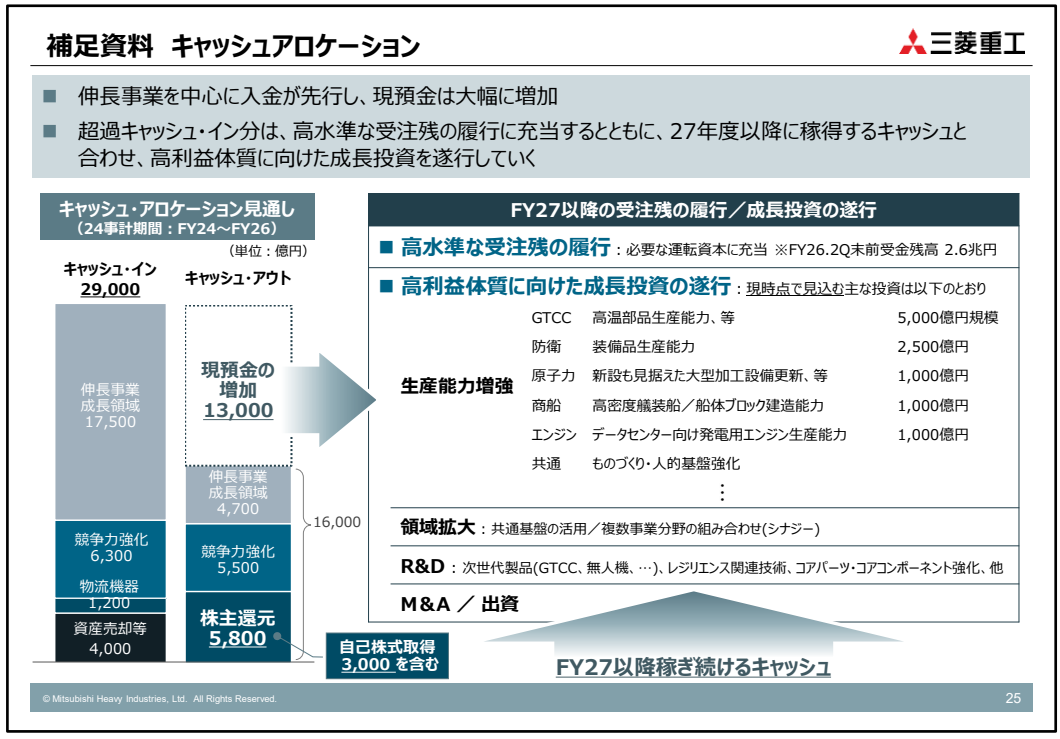
最後に、成長投資の取り組みについてご説明いたします。

CFOからご説明しましたとおり、足元の収益力は着実に向上しています。
高水準の受注残の遂行にあたり、生産性の向上に取り組み、高利益体質を構築します。これにより、2027年度以降も利益の拡大を図り、継続的に大きなキャッシュを創出します。そして、これらのキャッシュを、今後の成長投資に振り向けていきます。

まず、成長投資です。あくまでも、最初に申し上げましたように、リードタイム短縮による生産性向上を基本としたうえで、戦略的な分野には、集中的に設備投資を行います。

たとえば、GTCCでは、ユーティリティ向けのガスタービンの稼働台数の増加に伴い、アフターサービスとして高温部品の需要の増大が確実に見込まれています。高度な製造ノウハウが必要で、競争力の源泉であるため、集中的に設備投資を行います。伸長分野である防衛、原子力に加え、高密度艤装船やエンジンなどについても、同様の考え方で設備投資を進めます。このスライドで取り上げた製品以外にも、検討中のアイデアはたくさんあります。

また、先ほどお話した「共通基盤の活用と複数事業分野の組み合せによる領域拡大」の具体化を進めていきます。ここでは、当社ならではのシナジーの創出を狙います。



（前ページの続き）
さらに、次世代の製品や、レジリエンス関連技術に加え、製品やサービスの競争力強化につながるコアパーツ・コアコンポーネントなど、戦略的に研究開発への投資を拡充していきます。具体化にあたっては、社内外の連携、オープンイノベーションの活用、M&Aを検討しています。

2024事業計画で進めてまいりました基礎固めは、着実に成果として現れはじめました。

2027事業計画では、GTCCや防衛をはじめとする既存事業の成長に加え、社会が求める価値を捉え、レジリエンスを切り口に次の成長機会を具体化していきます。来年5月に公表予定の2027事業計画では、その具体的な姿をしっかりとお示ししたいと思います。

私からの説明は以上となります。

MOVE THE WORLD FORWARD MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES GROUP

三菱重工